

# 初めての浅草

(株) 第一コンサルタンツ  
右城 猛

## ■まえがき

平成19年5月24日、地盤工学会四国支部の代議員を代表して本部開催の通常総会へ出席を要請された。以前から一度行ってみたいと考えていた浅草に泊まることにした。

一泊して浅草寺周辺と隅田川を散策しただけであるが、すっかり気に入った。新宿や六本木のような近代的な街は疲れるが、浅草は歩くだけでも心が癒される。

羽田から浅草へのアクセスは、京急(京浜急行電鉄)で泉岳寺まで行き、そこから都営地下鉄浅草線に乗れば浅草に行くことができる。所要時間は大体50分である。

## ■ホテル

今回の旅行が決まったのは1週間前であった。割安なホテルパックをとることはできなかったため、ネットで捜して「浅草プラザホテル」に申し込んだ。ツインの部屋しか空いてなくて8070円であった。

浅草はビジネスマンの宿泊が多くて、平日でもホテルは混むようである。2005年に開業した、つくばエクスプレスが浅草を通っているのが影響しているのかも知れない。

地下鉄銀座線浅草駅のすぐ西側に「浅草プラザホテル」があった。雷門通りに面したビルで、5階から上がホテルになっていた。部屋は狭いが、インターネットも使えるし、何よりもフロントの対応が良かった。部屋には、「持ち出し禁止」と書かれた本「一生感動、一生青春」(相田みつを著)が置かれていた。壁には、相田みつをの色紙を入れた額が掛けられていた。ホテルのオーナーだけでなく、従業員も相田みつをの思想がしみ込んでいるに違いないと思った。



浅草の地図



宿泊した浅草プラザホテル

## ■雷門(かみなりもん)

ホテルの三軒隣が雷門。たくさんの人で賑わっていた。浅草といえば雷門。浅草寺の総門というよりも、浅草の顔として知られている。

正式名称は風雷神門。門の右側に風神像、左側に雷神像が安置されている。1635年に建立されたのであるが、幾度も火事に遭っている。現在の雷門は昭和35年に落成したもの。中央に吊り下がる大堤灯は、高さ4m、直径3.4m、重さ670kg。



雷門(風雷神門)



雷門の対面にあるからくり時計

雷門の前方、仲見世通りと雷門通りの交差点角に浅草文化観光センターがある。その入口の上部に「からくり時計」が取り付けられていて、毎正時、祭囃子にのって三社祭の神輿が登場する。それにやや遅れて中央左右両側の回転扉から朱を背景に、向かって左側に観音様ゆかりの白鷺の舞、右側に金龍の舞を踊る人形が登場する。演奏を見られるのは3分間。

私が雷門に到着したのが午後5時であったので、運良くからくり人形を見ることができた。浅草の人には悪いが、はりまや橋のからくり時計のほうがもっと精巧に作られていると思えた。

## ■人力車

浅草の名物の一つに人力車がある。雷門の周辺では数台の人力車が止まって客引きしていた。名所をガイドし、写真も撮ってくれるというので、人力車に乗ることにした。

時代屋、松武屋（しょうぶや）、えびす屋など組織的に営業している人力車もあるが、私が乗ったのは、車夫の小杉雄介さんが個人で営業している「小杉屋」の人力車。メニューには、浅草半分コース 8,000 円、浅草一回り 15,000 円などがあったが、所要時間 15 分のお試しコース 3,000 円を頼んだ。

雷門を出発して、雷門通りを西側に走り、次の交差点で右折してオレンジ通りに入り、浅草公会堂、六区通りを見て、公園本通りを通って、五重塔通りの終点までを案内してもらった。所要時間は 17 分で、だいたい予定通りであった。



初めて乗る人力車



この高さの目線で観光できると説明する  
小杉雄介氏





満願堂



浅草公会堂スターの広場



浅草公会堂



伝法院

雷門通りは通行車両が多い。その中を、オレンジ通りの交差点まで自動車と同じ速度で駆け抜けた。さすがプロだと感心した。小杉氏はこの道7年のベテランということであった。身体には筋肉が隆起している。少々食べ過ぎても糖尿病になることはなかろう。

### ■オレンジ通り

浅草は、浅草寺の周りに繁栄した門前町。門前町の中を東西、南北に通る道路には「〇〇通り」という名称がつけられている。

雷門から雷門通りを西に進んで最初の交差点を右折するとオレンジ通りに入る。オレンジ通りの両側には、江戸時代から営業を続けている老舗が多い。べっ甲の「鼈甲磯貝」、「芋きん」で有名な和菓子の専門店「満願堂」、「江戸金銀工芸 森銀器製作所」などが軒を並べている。

オレンジ通りの奥には、歌舞伎なども上演さ

れている「浅草公会堂」がある。浅草公会堂の前は「スターの広場」となっていて、浅草ゆかりの芸能人の原寸手形が舗装にはめ込まれている。その数は、ざっと数えて260名。その中には「美空ひばり」の手形もあった。子供の手のように小さい。「渡哲也」の手は大きい。手形を見れば、身体の大きさを推定できる。

### ■伝法院通り

オレンジ通りの突き当たりにある古い建物が伝法院(でんぼういん)。浅草寺の宿坊として用いられてきた所。

伝法院に面した東西の通りが「伝法院通り」。観光名所とするために全面改装し、江戸の風情を醸(かもし)し出す商店街に生まれ変わっている。店舗一軒一軒の作りが見直され、それぞれの店の商品や店風に相応しい店構えとなっている。店の軒の瓦や看板がとても面白い。



呉服屋「胡蝶」のねずみ小僧



書店「地球堂」の火の見櫓



平成17年3月に完成した六区通り

呉服屋「胡蝶」の屋根には、千両箱を抱えた鼠小僧がいる。書店「地球堂」の看板には、火の見櫓(やぐら)と半鐘(はんしょう)が見られる。「火事と喧嘩は江戸の華」と言われるように、江戸時代には火事が多くあり、浅草寺の本堂も何度も焼失している。街中のあちらこちらに火の見櫓が見られたのも江戸の風景の特徴である。

### ■六区通り

伝法院の西方で、伝法院通りに接続して東西に延びる通りが「六区通り」。通りの両側の街灯には、六区通り商店街の人々が選んだ33名の芸人の写真と経歴が表示されている。既に鬼籍に入っている人もいるが、現役で活躍されている芸人もいる。

1個だけ、予約済みと書かれた街灯があった。車夫の小杉氏の説明では、「ビートたけし」で



六区通りの街灯



あるとのことであった。自分より活躍されている先輩がいるのに、写真を飾ってもらうわけにはいかないと断ったため、予約済みのままにしてあるとのことであった。



予約済みの街灯



居酒屋「鈴芳」



居酒屋「鈴芳」で一杯飲む

## ■公園本通り

伝法通りと六区通りの合流点から南に延びている通りが公園本通り。通りの両側には、赤提灯を吊した居酒屋が並んでおり、店の前ではテーブルと椅子を並べて楽しそうにビールを飲んでいる。高知の屋台のような風情がある。

一通り観光した後で、居酒屋「鈴芳」に入る。どの店も呼び込みはしているが、しつこくはない。店に入っても特別に愛想が良いわけではないが、なんとなく人情が感じられる。

店の壁には美川憲一ら芸能人のサインを書いた色紙が貼ってあった。この店は、HPは作っていないが、利用した客によるインターネットへの書き込みも多い。

私は、ジョッキの生ビール、芋焼酎の湯割り、煮ばい貝、タケノコの煮物、真鱈の煮物、馬刺しを注文した。馬刺しは、5月4日に本場の熊本で食べていたこともあると思うが、ここのは、脂が多すぎて旨いとは思わなかった。しかし、その他の肴はとても美味しかった。値段は4千円であった。

## ■五重塔通り

この通りは、昭和22年に「木馬館通り商店会」として発足したが、昭和47年に「五重塔通り」と改名したようである。

この通りには、大衆演劇のメッカ「木馬館大衆劇場」、日本唯一の浪曲の定席「木馬亭」、街の博物館「浅草賑わいみゅーじあむ」等の特長ある施設がある。

木馬館は、大正7年に回転木馬を輸入して子供の娯楽場としてスタートした。その後回転木馬はなくなって、浪曲やコント、講談、大衆演劇などを中心に公演する芝居小屋に変わっていった。

木馬館で浅草名物となったものに『安来節』がある。島根の民謡をおもしろおかしくアレンジして、女性の演者が「どじょうすくい」などを演じて喝采を浴びたようである。



五重塔通り



木馬館



五重塔通りの終点

### ■ 浅草寺(せんそうじ)

浅草寺は東京都内最古の寺院。本尊は聖観世音(しょうかんぜおん)、聖観音(しょうかんのん)とも呼ぶ。もと天台宗に属していたが第二次世界大戦後独立し、聖観音宗の総本山となっ

た。観音菩薩を本尊とすることから「浅草観音」あるいは「浅草の観音様」と呼ばれ、広く親しまれている。地元では浅草寺(あさくさでら)と親しまれている。

本尊の観音像を祀っていた旧の本堂(観音堂)は、1649年に再建されて国宝に指定されていたが、1945年の東京大空襲で焼失したため、鉄筋コンクリート造として1958年に再建された。



聖観世音菩薩像(しょうかんぜおんぼさつぞう)



浅草寺の本堂





法蔵門



二天門



法蔵門と五重塔



仲見世通り

本堂の正面にあるのが宝蔵門。現在の門は1964年に実業家大谷米太郎夫妻の寄進によって再建された鉄筋コンクリート造。門の左右に仁王（金剛力士）像を安置することから、かつては「仁王門」と呼ばれていた。昭和の再建後は宝蔵門と称している。名の通り、門の上層は文化財の収蔵庫となっている。

法蔵門の西側の五重塔は1648年の建立。本堂と同様、関東大震災では倒壊しなかったが、1945年の東京大空襲で焼失した。現在の塔は1973年（昭和48年）に再建されたもので、鉄筋コンクリート造。基壇の高さ約5メートル、塔自体の高さは約48メートルである。

本堂の東側に東向きに建つ切妻造の八脚門が二天門である。1618年の建築で、第二次世界大戦にも焼け残った貴重な建造物である。この門は、本来は浅草寺境内にあった東照宮（徳川家康を祀る神社）の門として建てられたものである。

#### ■仲見世

法蔵門から雷門までの250mの間に、仲見世と呼ばれる88店舗の土産物屋が並んでいる。

ここは日本で最も古い商店街の一つである。徳川家康が江戸幕府を開いてから、江戸の人口が増え、浅草寺への参拝客も一層賑わうようになった。浅草寺境内の掃除の賦役を課せられて

いた近くの人々に対し、境内や参道に出店営業の特権が与えられた。これが仲見世の始まりといわれている。

明治維新の政変で寺社の所領が政府に没収され、浅草寺の境内も東京府の管轄となった。明治18年、東京府は仲見世全店を取り払い、煉瓦造りの新店舗を完成させた。ところが、関東大震災により壊滅した。現在の鉄筋コンクリート造で桃山風朱塗りの商店街は、大正14年に作られたものである。

昭和60年秋には近代仲見世誕生100周年を記念して電飾看板の改修、参道敷石の取替工事が行われた。全店のシャッターには「浅草絵巻」と題した浅草の歳事が描かれている。これは、平成元年に、東京芸術大学平山郁夫教授指導のもと、同グループによって描かれたものである。

### ■浅草神社

浅草寺の本尊となる観音像が隅田川を流れていたのを檜前浜成・竹成兄弟がすくい上げ、土師真中知が自宅に奉安したとされている。檜前浜成・竹成兄弟と土師真中知の三人を祀るために建立したのが浅草神社である。

江戸時代以前は浅草寺と一体をなしていたが、明治の初め、神仏分離の法令発令後は浅草寺と別になった。明治元年三社明神社、同5年浅草神社と改称されている。

浅草神社では江戸三大祭の一つ「三社祭」が行われている。三社祭の歴史は古く、一説には正和元(1312)年の船祭に始まるともいわれている。



浅草神社



二尊仏

### ■二尊仏 (にそんぶつ)

宝蔵門の手前の東側に、大仏が2基並んで建っている。二尊仏である。濡れ仏ともいう。

1687年に高瀬善兵衛直房が、主家江戸日本橋伊勢町の米問屋成井善三郎の菩提を弔うために、太田久右衛門正儀に制作させたもので、江戸初期を代表する仏像といわれる。

建立当時は300坪の地域に石垣をめぐらしていたというが、今は仲見世が並んで往時の規模を偲ぶ様子はない。

### ■常磐堂雷門本店

雷門のすぐ西側に、浅草名物「雷おこし」で有名な常磐堂雷門本店がある。江戸時代末期、約250年前の創業とされる老舗。

「おこし」の由来は、「米巨米女」(おこしごめ)から作ることから、保存食・携帯食として使われていた「ほしい(干飯・乾飯)」が訛ったとか、いろいろな説がある。



常磐堂雷門本店





アサヒビール吾妻橋本部ビル

#### ■アサヒビール吾妻橋本部ビル

隅田川をわたった吾妻橋の袂に、アサヒビール吾妻橋本部ビルがある。1989年の竣工と同時に東京の新名所となった。

22階建ての「アサヒビールタワー」は、琥珀色のガラスと頭頂部の白い外壁で、泡のあふれるビールジョッキをイメージしている。隣接する「スーパードライホール」は、フランスの著名なデザイナー、フィリップ・スタルク氏によるもので、屋上の「炎のオブジェ」は、躍進するアサヒビールの心の象徴。

#### ■隅田川の橋梁

隅田川は、江戸時代ころには吾妻橋近辺より下流を「大川」、浅草近辺を「浅草川」、隅田川、上流を「荒川」、「宮古川」と呼んでいた。

現在、足立区の千住大橋から下流の隅田川に架かる橋は、上流の方から千住大橋、水神大橋、白鬚橋、桜橋(歩行者専用橋)、言問橋、東武電

車鉄橋、吾妻橋、駒形橋、厩橋、蔵前橋、JR総武線鉄橋、両国橋、首都高速道路、新大橋、清洲橋、隅田川大橋、永代橋、中央大橋、佃大橋、勝鬨橋と25橋の橋梁が架かっている。

関東大震災後の復興事業として、昭和のはじめに架け替えられたり修理された橋が多い。さらに近年の交通量の増加にあわせて新規に架橋されている。

#### ●吾妻橋

橋長 150.1 m, 幅員 20.0 m, 昭和6年(1931)に架設された3スパン 鋼製 ヒンジアーチ橋。

安永3年に伊右門衛門という町人が私費で架けたのが最初。明治20年に隅田川で最初の鉄橋となったが、大震災のとき焼け落ちた。

#### ●駒形橋

橋長 146.3 m, 幅員 25.2 m, 昭和2年(1927)に架設された3スパン 鋼製 ヒンジアーチ橋。

橋の名は袂にある駒形堂による。関東大震災の復興事業として架けられた橋で、太い石造りの橋脚に風格を感じる。ブルーのアーチが美しく、橋の途中に欄干を膨らませたバルコニーが作られている。



吾妻橋



駒形橋

●厩橋うまやばし

橋長 151.4 m , 幅員 21.8 m, 昭和 4 年(1929)に架設された 3 スパン 鋼製 タイドアーチ橋。

明治 7 年に最初の橋が架けられた。以前には「御厩 (おんまい) の渡し」があった。西岸に幕府の馬小屋があったことからこの名がついた。現在は「うまやばし」と呼ばれているが、江戸時代は「おんまやばし」であった。

●蔵前橋

橋長 173.2 m, 幅員 22.3 m, 昭和 2 年 (1927)に架設された 3 スパン 鋼製 ヒンジアーチ橋。

江戸時代には幕府の米倉や酒蔵が 1 0 0 軒も建ち並び、札差などの大富豪が住んでいた地域。米などが陸揚げ貯蔵された所で隅田川から 8 本の堀が船着場に作られていた。



厩橋



蔵前橋

(2007 年 5 月 27 日)